

東京五輪ゴルフ会場を即刻変更すべし！

～女性差別や灼熱地獄など問題山積のプライベートコース「霞ヶ関カンツリー倶楽部」ではなく、都府県有のパブリックコース「若洲ゴルフリンクス」へ変更すべき8つの理由～

参議院議員 松沢 成文

新年早々の1月4日に東京五輪組織委員会の森喜朗会長が、既に東京五輪のゴルフ会場として決定している「霞ヶ関カンツリー倶楽部（以下『霞ヶ関』）」について、選手村からの交通アクセスや暑さ対策の問題から会場変更の可能性に言及したと一部メディアが報じました。

この問題について私は、志あるプロゴルファーやゴルフ関係者の賛同を得て、2014年10月から合計8回、国会において参議院の予算委員会や文教科学委員会で、安倍総理大臣や丸川オリパラ担当大臣、松野文部科学大臣等への質疑で取り上げてきました。こうした国会質問の他、テレビや雑誌などを通じ再三、ゴルフ会場を当初予定していた東京都所有の「若洲ゴルフリンクス（以下『若洲』）」へ見直すことを訴えて参りましたが、ようやくその兆しが現れてきたことに微かな希望を感じています。

また、私も参加する日本ゴルフ改革会議（大宅映子議長）でも、発足した2014年6月以来、東京五輪のゴルフ会場問題を取り上げ、同年10月には提言をまとめました。

こうした活動を踏まえ、同会議が昨年12月に霞ヶ関と若洲の対比表を添えて、英訳した要望書を国際オリンピック委員会（IOC）のトーマス・バッハ会長へ届けたことが今回の森会長の発言に繋がったものと考えられます。

昨年のリオ五輪からゴルフが正式競技に復帰しましたが、ゴルフ人口の減少が続く日本ゴルフ界にとって、2020年の東京五輪でのゴルフ競技成功をきっかけに人気を取り戻すことが念願となっています。一方で、その五輪の舞台となるゴルフ会場となっている霞ヶ関が大きな問題を抱えていることは、残念ながら余り知られていないのが実状です。

2020年まで残された時間は僅かです。早急にゴルフ競技会場を見直さなければ、この問題は東京五輪の失敗の象徴として永久に語り継がれることでしょう。昨年来議論されてきた競技会場の見直し問題ですが、最後に残されたゴルフ会場問題を解決するのは今しかありません。

そこで、改めて霞ヶ関から若洲への変更が必要とされる8つの理由を以下に述べさせていただきます。合わせて、私が国会質問用にまとめた両ゴルフ場の比較表（資料1・2）を添付いたしますのでこちらもご参照下さい。

1 女性差別

霞ヶ関は素晴らしいゴルフコースですが、運営上男女間に格差をもうけています。

女性は霞ヶ関の正会員になれず、総会の議決権の保有も認められていないことからクラブ運営に携わることができません。週日会員（月～土曜の会員）や家族会員になることは認められていますが、それでも原則として女性は日曜日にプレーすることが許されていないのです。

これは、オリンピック憲章のオリンピズムの根本原則第4項で「スポーツをすることは人権の1つである。すべての個人はいかなる差別も受けることなく、オリンピック精神に基づき、スポーツをする機会を与えられなければならない。」と定めたうえで、「オリンピック関係者は、その活動がオリンピック憲章に定められた原則と矛盾する企業又は個人に関与してはならない。」とするI O C倫理規定に明確に違反しており、五輪競技会場として失格であると断ぜざるを得ません。

霞ヶ関がいくら良いゴルフコースであり、ゴルフ大会にふさわしくとも、オリンピックには望ましくないことは明らかです。

実際に1996年のアトランタ五輪では、マスターズが行われるオーガスタナショナルGCを会場にしてゴルフが正式競技になる予定でしたが、オーガスタが女性メンバーを排除していることをI O Cが嫌い見送られているのです。

一方で若洲はパブリックコースであり、老若男女、一般国民が等しくプレーすることができます。

2 レガシー

女性を差別する人権問題に加え、霞ヶ関はプライベートコース（高級会員制クラブ）であることから、五輪後に一般の国民・都民が自由に利用することができません。

若洲は開催都市である東京都が所有するパブリックコースなので、当然のことながら性別や貧富により利用が制限されることはありません。予約をとることができれば誰でもプレーすることができ、オリンピック会場となったゴルフ場としてのレガシーを全ての人々が共有できます。

リオ五輪でも当初会場に決まった会場はプライベートコースでしたが、「大会後に一般の人々が利用できずレガシーにならない」という理由で、新たにパブリックコースを造成して（レセルバ・マラペンディGC）会場を変更しました。

3 気候

霞ヶ関が存在する埼玉県内陸部は、夏期において日本屈指の高温地域です。

最寄りの気象庁観測地点のデータでは、ゴルフ競技開催期間と同じ時期の過去3年間の気温を平均すると、国が運動を原則として中止すべきであるとして注意を促す35度を超える35.87度にもなります。これに対して海風も吹く若洲は4度ほど低く

なることが判明しています（資料2）。

環境省は35度を超えると屋外での運動を控えるよう警告を出します。そんな状況でゴルフ競技を強行できるのでしょうか？

実際に、一昨年の夏にはあるコンペの参加者のうち5%が熱中症で倒れたことが報道されています。想定される2万5000人の観客動員が実現した場合には単純計算で1250人もが熱中症で倒れることとなります。収容する救急車も病院も足りず、熱中症患者が続出し、死者が出る可能性すら否定できません。

7月下旬から8月上旬という日本の夏でも最も暑い時期に、日本の中で最も暑い場所で、屋外スポーツを強行することは、まさに狂気の沙汰です。アスリート・ファースト、ギャラリー・ファーストに逆行し、選手の出場辞退につながる可能性もあります。

実際に、霞ヶ関のメンバーでもある東京都病院協会会長の医師や著名な気象予報士もその危険性を訴えているのです。

4 会場へのアクセス

選手村から直線距離で44kmも離れている霞ヶ関へのアクセスは、車で1.5時間、渋滞すれば2～3時間もかかります。ギャラリーが鉄道交通を利用する場合は、西武新宿線狭山市駅からの送迎バスか、最寄り駅のJR川越線笠幡駅からの徒歩しかなく、この笠幡駅は乗降客3000人程度の小さな駅で、駅の改造をしない限り対応できません。このように交通アクセスの悪さは、選手への対応でもギャラリーの集客でも大きな問題となります。

これに対し、若洲は選手村から6kmで東京駅や羽田空港から車でわずか15分。他に複数の最寄り駅もあり、送迎バスで対応可能です。

5 運営費用

選手村から遠く離れた霞ヶ関まで移動するために関越道など高速道路に専用レーンを設ける予定で、これに多額の補償費が費やされることとなります。加えて、孤立した遠隔地の会場では、警備費も割高になるのは常識です。

未だ大会組織委員会は明らかにしませんが、霞ヶ関を会場とする場合の交通対策と警備の費用は、膨大なものになると予測されます。一方、都心や選手村から至近の距離の若洲では、道路対策でも警備費でも特別の予算はかからず、運営費用も大幅に削減できます。

6 宿泊施設

霞ヶ関周辺はのどかな地域であり近隣では宿泊施設が大きく不足しています。選手村（分村）を造らない限り、選手は東京の選手村かホテルから通うことになり、交通アクセスの問題に直面することとなります。一方で若洲は都心部にあり、選手村以外にも大規

模なホテルが多数存在しています。

7 運営関連施設

霞ヶ関は敷地が広いことから駐車場や練習場、メディアセンターなどの関連施設に使用する敷地を確保する点で優位であるとされますが、若洲でも隣接する公有地を使用することで十分に対応できます。むしろ駐車場について、霞ヶ関では西コースなどの敷地を利用することにメンバーの反対もあると聞いています。

若洲は霞ヶ関に比べればコース面積は狭いですが、部分的な改良により、コース距離の延長や仮設スタンドの設置も充分可能で、2万人程度のギャラリー収容にも十分対応できます。

8 会場決定経緯

2012年2月に招致委員会へ提出した当初の申請ファイルの記載では、若洲から霞ヶ関に変更されるに至った経緯が公開されておらず、一部の利害関係者によって意図的に決められたことが強く疑われています。

この霞ヶ関に決定した招致委員会の会議が独自に設けた基準は、国際ゴルフ連盟（IGF）の基準とは大きく異なったもので、リオ五輪でも必要とされなかった「36ホール以上を保有するコース」とした点など、若洲を外しあえて霞ヶ関に選定するための基準にしたことが推測されます。

以上、中心的な問題点として変更すべき8つの理由を挙げました。

「資料1」にまとめてみましたが、霞ヶ関での開催は、レガシーの面でも、気候条件の面でも、交通アクセスや開催コストの面でも極めて大きな問題を抱え、このままではゴルフ競技の成功は望めません。レガシーづくり、アスリート・ファースト、コンパクト五輪などの東京大会の理念に逆行する会場決定と言わざるをえません。東京の真中にある東京都所有のパブリックコースである若洲をなぜ有効に活用しないのでしょうか？

丸川大臣や松野大臣はじめこの問題を担当する歴代の各大臣は、私からの問題提起に対して「調整会議の場で報告する」と答弁しましたが、その後議論は全くなされていません。「プロセスを経て決まったものは変更できない」という頑なな態度で改革の意思が全くないようです。このままでいいのでしょうか。

東京五輪の成功を強く願う国民の代表として、一刻も早く適切な判断の下にゴルフ競技会場の変更が実現されるよう強く要望します。森喜朗大会組織委員会会長と小池百合子東京都知事には、東京大会を成功させるために、速やかに再検討されることを願ってやみません。

皆様におかれましてもご賛同とご支援を賜りますようお願い申し上げます。